

平成 28 (2016) 年 11 月 12 日

一般国道 18 号 長野東バイパス改築関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

## 小島・柳原遺跡群発掘調査 現地説明会資料

(一財)長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター

### 1. 調査の概要

長野県埋蔵文化財センターでは、一般国道 18 号長野東バイパス改築関連事業に伴い、平成 28 年 6 月 1 日から小島・柳原遺跡群の調査を開始しました。今年度の調査区では、奈良・平安時代とみられる複数の竪穴住居跡、中世の溝跡、近世の墓跡や、<sup>ごりんぼう</sup>五輪塔や<sup>どうわん</sup>銅椀・<sup>とうまりがたごうす</sup>塔甕形合子といった仏教に関連する遺物も発見されています。

調査場所：長野市大字柳原 1561 ほか

調査原因：国土交通省長野国道事務所による一般国道 18 号長野東バイパス改築工事

調査期間：平成 28 年 6 月 1 日～11 月 30 日 (予定)

調査面積：4,800 m<sup>2</sup>

検出遺構：奈良・平安時代竪穴住居跡、中世溝跡、近世墓跡、時期不明土坑、旧河川流路跡

出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器、金属製品 (銅椀・塔甕形合子・古銭・煙管)  
石製品 (五輪塔)、骨 (人・獣)

### 2. 遺跡の立地と概要

小島・柳原遺跡群は、長野市東部の千曲川左岸の自然堤防上に位置しています。遺跡群の推定範囲は北長池から大町まで広がっているとされ、今回の調査地点はその推定範囲の南端にあたります。

周辺で行われた発掘調査では、弥生時代から古墳時代を中心とした集落が確認されています。<sup>みちのちまほす</sup>水内坐一元神社遺跡では竪穴住居跡のほかに、弥生時代終末期の<sup>かみくら</sup>環濠とみられる大溝や、弥生時代後期から古墳時代前期の<sup>しゅうどうぼ</sup>周溝墓などが確認されていて、大規模な集落が営まれていたと思われます。

今回の調査地点では奈良・平安時代の竪穴住居跡が集中して確認されており、この時期にも小規模な集落が形成されていたとみられます。さらに、南北に延びる城館や寺院跡に伴うような幅 6m、深さ 1.5m 以上の中世の大溝もみつかりました。

また、今回近世とみられる墓群が確認されています。土葬と火葬の両方の墓があり、そのうち 1 体の人骨は、壮年女性と鑑定されました。

### 3. 主な出土遺物

#### 土器・灰釉陶器・陶磁器



土師器 平安時代



灰釉陶器 平安時代



青磁 (中国龍泉窯) 鎌倉時代



焙烙 江戸時代

#### 金属製品

塔甕形合子は、蓋に塔の相輪形の鈕を付けた合口造りの容器です。法隆寺や正倉院に伝世品があり、日光男体山では発掘調査によって出土した例があります。



塔甕形合子



参考 正倉院黄銅合子

#### 石製品

五輪塔は、墓や供養塔として建立されたものです。この遺跡では、溝に廃棄された状態でみつかりました。



五輪塔 (空風輪)



埋文キャラクター  
ごりん坊

#### 4. 主な遺構・遺物



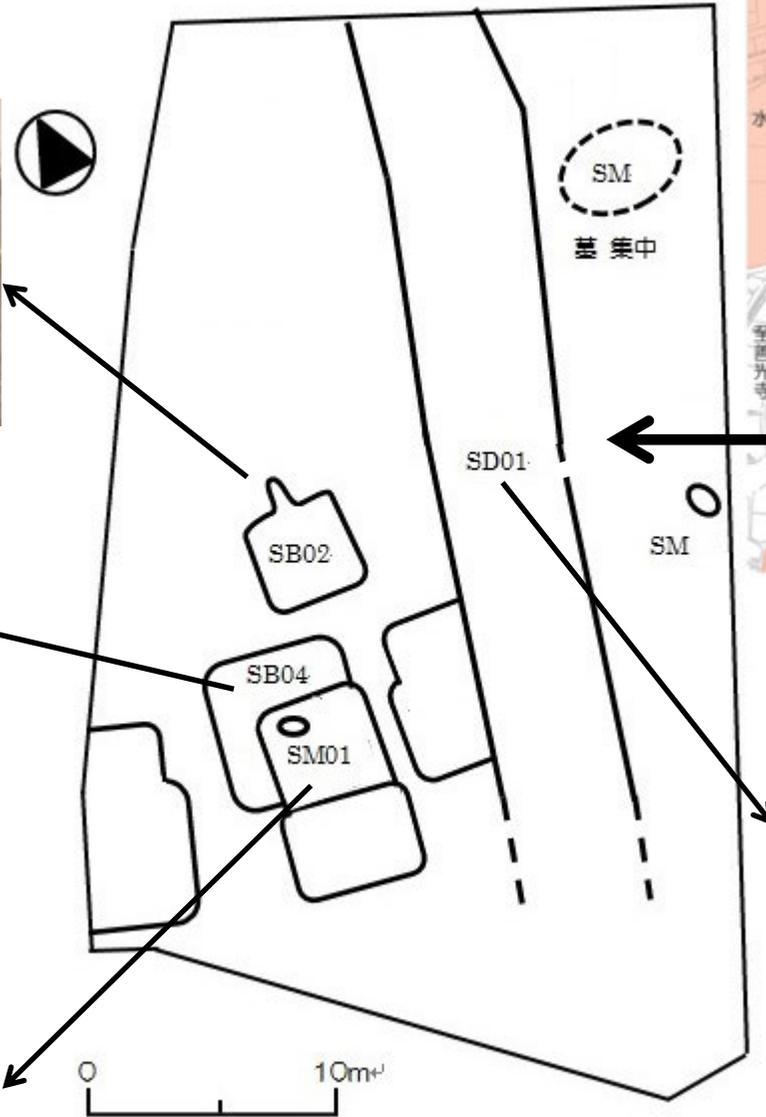
SB02 灰土 遺物出土状況



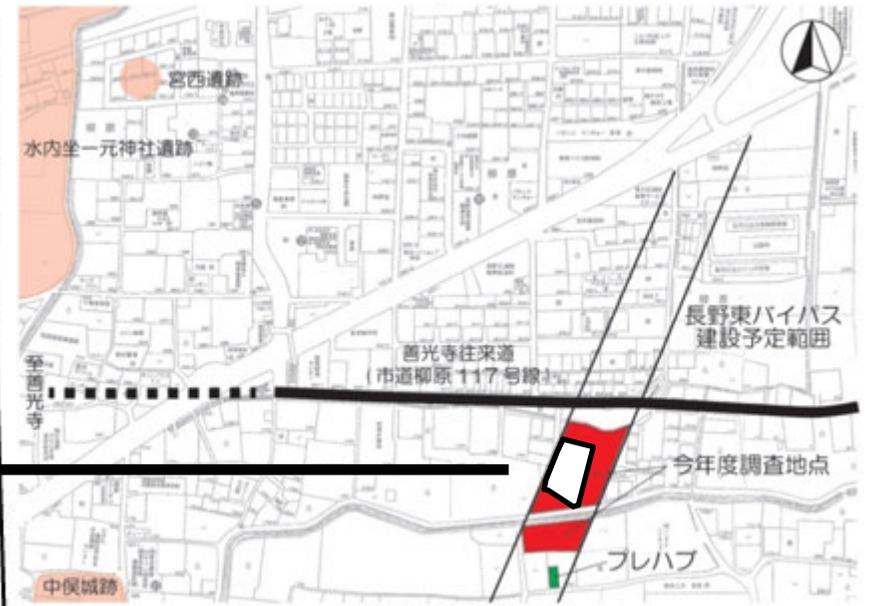
SB04 塔鉢形合子出土状況



SM01 土坑墓



SB：竪穴建物跡  
SM：墓跡  
SD：溝（堀）跡



今年度調査範囲（赤色）と今回の現地公開地点（白抜）

